

ユーザ企業での事業デジタル化推進者育成に関する カリキュラムの実践的研究の報告（2025年度版）

Report on a Practical Study of a Curriculum for Training Business
Digitalization Promoters in User Companies (2025 Version)

<プロジェクト・メンバー>

山口 理栄^{†2} 居駒 幹夫^{†1} 松澤 芳昭^{†1} 寺尾 敦^{†1}
宮川 裕之^{†1}

Yamaguchi Rie^{†2} Ikoma Mikio^{†1} Matsuzawa Yoshiaki^{†1} Terao Atsushi^{†1}
Miyagawa Hiroyuki^{†1}

^{†1} 青山学院大学社会情報学部

^{†1} School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

^{†2} 青山学院大学社会情報学研究科

^{†2} Graduate School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

キーワード：デジタルトランスフォーメーション，履修証明プログラム，リスキリング，情報システム，ADPISA

Keywords: Digital Transformation, Certification Program, Reskilling, Information Systems, ADPISA

1. はじめに

20 世紀の IT 技術は従来業務の情報システム化が主な用途であった。しかし、昨今、企業 / 組織の将来の成長、競争力強化のために IT 技術を活用し、新たなビジネスモデルを創出・柔軟に改変するデジタルトランスフォーメーション（＝ DX）が注目されている。経産省が 2018 年に発行した DX レポート [1] 以降、DX レポートの改革施策の一つとして、「ユーザ企業のあらゆる事業部門で事業のデジタル化を実現できる人材の育成」が挙げられており、これまでビジネスと IT が分離されていた国内の IT 業界で、融合的なスキルを持つ人材の育成が国家的な課題の一つになっている。

本研究は、この課題にどのように対応していくかについて、産学連携で推進する実践的研究プログラムを

中心に取り組むものである。本研究の目標は、青山学院大学社会情報学部で培ってきた社会、人間、情報の融合人材育成の経験をベースに、産学の識者で検討を進め、そこで得られた成果を社会情報学部の教育カリキュラムや社会人向けの履修証明プログラムにも反映することにある。

2016 年から検討を始め、2019 年度から社会情報学部の履修証明プログラムとして青山・情報システムアーキテクト育成プログラム（Aoyama Development Program of Information Systems Architect, 以下 ADPISA）として社会人に対する教育活動として実践している。2022 年度からは、ADPISA の初級、中級、上級の 3 プログラムに再編成し、2023 年度から、特定の企業と連携したプログラム提供を始めた。本報告では、2025 年度の取り組みを中心に報告する。

2. ADPISA の目標, 位置づけ

青山学院大学社会情報学部が提供している履修証明プログラム ADPISA の目標は、「新たな価値を創造する情報システムアーキテクトを育成すること」である。ここでいう「情報システムアーキテクト (IS アーキテクト)」の位置づけを図 1 に示す。



図1 ITアーキテクトとISアーキテクト

従来、情報システムというと、IT 技術を使ったコンピュータを中心にしたシステムのことを指していた。このシステムを企画、設計できる人材を IT アーキテクトと呼んでいる。一方、ADPISA では、この（従来の定義での）情報システムを「狭義の情報システム」ととらえ、そのシステムを使う人間や、利用する組織やプロセス、さらには社会までを含めた情報システム学 [3] における「広義の情報システム」を対象とする。この広義の情報システムを企画、設計できる人材を IS アーキテクトと呼ぶ。以上の IS アーキテクトを育成するのが ADPISA の目標である。

ADPISA は、社会人向けの情報システムの履修証明プログラムとして 2016 年度に社会情報学部で発足した。2017 年、2018 年の準備期間を経て 2019 年度から社会人向けの履修証明プログラムとして毎年実施している。

3. ADPISA 関連の 2025 年度報告

2025 年度の ADPISA の実施報告、次年度 2026 年度に向けた取り組みを報告する。

3-1. 2025 年度実施した教育プログラム

2025 年度は、表 1 に示す 5 つの教育プログラムを実施した。今年度は、文部科学省の補助は受けず、5 教育プログラムとも、青山学院大学の自立事業として実施した。

表 1 2025 年度の実施プログラム

#	教育プログラム略称 (実施期間)	履修証明 プログラム	文科省 事業
1	ADPISA-M 2025/5 ~ 2025/10	○	
2	ADPISA-H 2025/5 ~ 2025/11	○	
3	ADPISA-E 2025/9 ~ 2026/2	○	
4	ADPISA-Z 2026/1 ~ 2026/3	○	
5	ADPISA-CPA 2026/1 ~ 2026/3	○	

これらの教育プログラムのうち、ADPISA-M、-H、-E の位置付けを図 2 に示す。

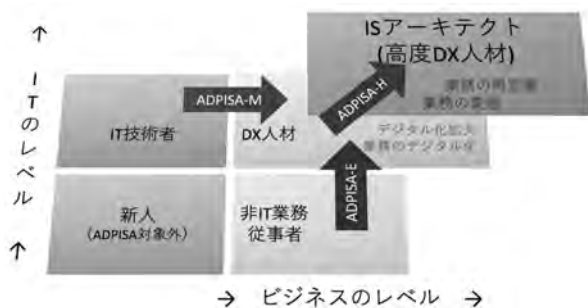


図2 ADPISA のプログラムの位置付け

ADPISA-M は IT 職種経験者を対象とし、情報技術には詳しいが、それを活用して価値を生み出すことのできる DX 人材の育成を目指すプログラムである。ADPISA-E は、IT 職種は未経験だが、他の分野で経験を積んでいる社会人を対象に、IT と DX の基礎を身につけさせるプログラムである。ADPISA-H は、組織の DX をリードすることができる高度 DX 人材である IS アーキテクトを育成するプログラムである。

2025 年度は、これらの 3 教育プログラムに加えて、短期間、完全オンラインの ADPISA-Z、ADPISA-CPA を開催した。ADPISA-Z は ADPISA-

H, ADPISA-M の主要科目を短期間で学ぶプログラムである。ADPISA-CPA は、ブリッジコンサルティンググループ（株）と共同開発した公認会計士向けの ADPISA プログラムで、ADPISA-Z と同時開催した。

次節より、時系列にこれら 5 つの教育プログラムの 2025 年度の実施内容を報告する。

3-2. ADPISA-M 実施報告

(1) 概要

2025 年度の ADPISA-M は昨年度同様に ADPISA-H と同時期に開催し、ADPISA-H 選択科目の一部を受講可能にした。ADPISA-M 受講者が受講した科目と受講人数は表 2 の通りである。

表 2 2025 年度の ADPISA-M 実施科目

ID	科目名	講師	分類	時間数	受講者数
201	情報システム (中級編)	宮川裕之	必修	15.0	20
202	価値を実現するためのプロジェクト マネジメント	初田賢司	必修	22.5	18
251	情報×経営による 価値創造デザイン	宮川、 皆木	選択	15.0	19
252	ビジネスプロセス・データの モデリング	三輪一郎	選択	15.0	11
253	アジャイル開発 入門	藤井智弘	選択	7.5	7
254	デザインシンキング 入門	鈴木寿里	選択	15.0	12
256	DX 時代の 情報技術者の ライフデザイン	山口、居駒	選択	15.0	14
298	選択科目群 (Udemy)	居駒幹夫	選択	30.0	16
257	生成 AI で変わる 情報システム	宮川、寺尾、 村田、居駒、 弥生	選択	7.5	12
151	セキュアな企業と 情報システム	平川歩	選択	15.0	5
153	プロジェクトを 成功させるための 見積もり技術	初田賢司	選択	7.5	7
154	DX を加速し、チェ ンジを生み出す リーダーシップ	広石拓司	選択	15.0	6
156	アジャイル開発を 成功させる組織 マネジメント	居駒幹夫	選択	7.5	6
157	ユーザー主導の 情報システム 要求定義	鎌田真由美	選択	7.5	7

(2) ADPISA-M 実施概況

定員 30 名に対し、履修証明対象者が 18 名、単科受講者が 6 名、合わせて 24 名が ADPISA-M を受講した。

受講者のプロフィールを表 3 に示す。

表 3 2025 年度 ADPISA-M 受講者のプロフィール

項目	内容
全受講者	24 名（うち単科受講者 6 名）
性別	女性 14 名、男性 10 名
受講形態	会社派遣 4 名、20 名が個人受講。
年齢	最年少 25 歳、最年長 55 歳、平均 41 歳
業種・職種	IT 企業の IT 職種 14 名、ユーザ系企業の IT 職種 3 名、非 IT 職種 1 名。（履修証明対象者のみ）

2025 年度の ADPISA-M は、受講生の過半数が女性で、履修証明プログラムとしての受講者は 1 名をのぞいて IT 職種で、プログラムのターゲット層である『IT 職種経験者』と合致しており、当初の設計通りの受講者層となった。

各科目とも、対面講義（青山キャンパス、図 3）、またはオンライン講義（Zoom を使用）で予定通り実施した。

履修証明プログラム対象の 18 名のうち 120 時間コースが 14 名、60 時間コースが 4 名で、全員が決められた時間数以上の科目を修了し履修証明書を発行した。



図 3 ADPISA-M「価値を実現するプロジェクトマネジメント」授業風景

3-3. ADPISA-H 実施報告

(1) 実施科目

2025 年度の ADPISA-H は、昨年度同様 ADPI-

SA-M と同時期に開催し、ADPISA-M 選択科目の一部を ADPISA-H 受講者も受講可能にした。2025 年度の実施科目を表 4 に示す。

表 4 ADPISA-H 実施科目

ID	科目名	講師	分類	時間数	受講者数
101	情報システム学入門	宮川裕之	必修	15.0	10
103	チェンジを推進するビジネスアナリシス	庄司敏浩	必修	15.0	13
151	セキュアな企業と情報システム	平川歩	選択	15.0	11
152	データサイエンスを活用した情報システム構築	寺尾敦 居駒幹夫	選択	22.5	8
104	情報システムのプログラムマネジメント	初田賢司	選択	7.5	11
153	プロジェクトを成功させるための見直し技術	初田賢司	選択	7.5	7
154	DX を加速し、チェンジを生み出すリーダーシップ	広石拓司	選択	15.0	9
155	企業のアジリティを生む IS 投資計画	三輪一郎	選択	7.5	10
156	アジャイル開発を成功させる組織マネジメント	居駒幹夫	選択	7.5	7
157	ユーザー主導の情報システム要求定義	鎌田真由美	選択	7.5	12
198	選択科目群 (Udemy)	居駒幹夫	選択	30.0	10
102	情報システムアーキテクト実践研究	宮川, 庄司, 居駒	必修	15.0	10
252	ビジネスプロセス・データのモデリング	三輪一郎	選択	15.0	3
254	デザインシンキング入門	鈴木寿里	選択	15.0	3
256	DX 時代の情報技術者のライフデザイン	山口, 居駒	選択	15.0	0
257	生成 AI で変わる情報システム	宮川, 寺尾, 村田, 居駒, 弥生	選択	7.5	3

(2) ADPISA-H 実施概況

定員 20 名に対し、履修証明対象者が 10 名、単科受講者が 7 名、合わせて 17 名が ADPISA-H を受講した。受講者のプロフィールを表 5 に示す。

表 5 2025 年度 ADPISA-H 受講者のプロフィール

項目	内容
全受講者	17 名 (履修証明対象者 10 名、単科受講者 7 名)
受講形態	会社派遣 1 名、16 名が個人受講。
業種・職種	IT 系企業 IT 職種 4 名、ユーザ系 IT 職種 2 名、非 IT 職種 4 名 (履修証明対象者のみ)
年齢	最年少 32 歳、最年長 54 歳、平均 47.0 歳 (履修証明対象者のみ)

ADPISA-H では受講生の能力や理解レベル、受講動機がさまざまであることを踏まえて、2023 年度からキャリアコーチ、テクニカルコーチを導入し、選択科目の設定、中長期的目標の設定を支援している。実施環境としては、対面講義を中心に青山キャンパスで実施した (図 4)。一部講義はオンライン講義として、リアルタイム型、オンデマンド型の両方を組み合わせて実施した。オンライン、オンデマンドの両方とも、リモート会議システムの Zoom を活用した。



図 4 ADPISA-H「ユーザー主導の情報システム要求定義」講義風景

3-4. ADPISA-E 実施報告

(1) 概要

ADPISA-E の教育プログラムは、IT を体系的に学んだことがない社会人を対象とし、DX 分野の人材として IT と情報システムの基礎を習得させるものである。IT 分野での女性活躍を目標に受講者の 3 分の 2

以上を女性となるようにしている。

今年度は、テクニカルコーチによる面談はなくし、IT 基礎科目群や IT 職種対応科目群の講義時間中に個別に講師が受講生と話す時間を設けた。

2025 年度の実施科目群の構成を図 5 に、科目群の内容を表 6 に示す。

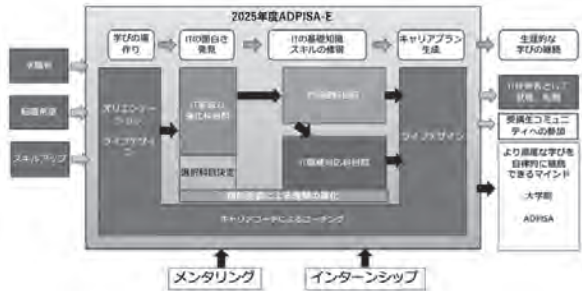


図 5 ADPISA-E のプログラム構成

表 6 2025 年度の ADPISA-E 実施科目群

科目群名	内容	時間
IT 実践力強化科目群	IT の基礎知識から入るのではなく、まず演習を通して IT の面白さを体験してから講義に入る	9.0H
情報システム科目群	「情報システムとは何か」「プロジェクトマネジメント」「情報システム分析基礎」について学ぶ	30.0H
IT 基礎科目群	中途入社では体験できない IT 会社の新入社員向けの実践的な知識・スキルを体系的に学ぶ	67.5H
IT 職種対応科目群	さまざまな IT 系の職種で即戦力になれる知識・スキルを選択して受講する	13.0H
キャリアデザイン科目群	労働環境や働き方についての知識を身につけた上で「ライフイベントを前提にしたキャリアプラン」を作成	9.0H
総計		128.5H

(2) ADPISA-E 実施概況

定員 60 名に対し、33 名が受講した。修了は 2026/2 の予定。受講生のプロフィールを表 7 に示す。

表 7 2025 年度 ADPISA-E 受講者のプロフィール

項目	内容
全受講者	開講時 33 名
雇用形態	会社員 23 名、その他法人 9 名、フリーランス 0 名、無職 1 名
性別	女性 28 名、男性 5 名
年齢	最年少 27 歳、最年長 64 歳、平均 44 歳



図 6 ADPISA-E「楽しく学べるプログラミング入門」授業風景

3-5. ADPISA-Z, ADPISA-CPA について

(1) 概要

2025 年度は、短期間、完全オンラインの履修証明プログラム ADPISA-Z（120 時間履修証明プログラム対応）と ADPISA-CPA（60 時間履修証明プログラム対応）を開発した。これらの履修モデルの特徴は次の通りである。

- 企業のチェンジに重点を置いた科目を厳選
- 完全オンライン（Zoom を利用）
- 予復習の拡充による短期間で修了可能なプログラム
- 生成 AI を使った講義および予復習の効率化
- Udemy を使った個別最適な選択科目履修

さらに ADPISA-CPA は、公認会計士の資格を持つ社会人が、情報システムアーキテクトに成長するためのプログラムで、公認会計士にとって情報システム関連のトピックを学ぶ科目を新設した。ADPISA-Z, ADPISA-CPA で実施した（一部実施予定の）科目を表 8 に示す。

表 8 2025 年度の ADPISA-Z/ADPISA-CPA 実施科目

ID	科目名	講師	分類	時間数	受講者数
401	情報システム学入門	宮川裕之	必修	15.0	9
403	チェンジを推進するビジネスアナリシス	居駒幹夫	必修	15.0	9
451	セキュアで統制された企業と情報システム	牟禮恵美子 谷一磨 居駒幹夫	CPA 必修	15.0	3
402	価値を実現するためのプロジェクトマネジメント	居駒幹夫	必修	22.5	9
404	情報×経営による価値創造デザイン	宮川裕之	Z 必修	15.0	6
405	生成 AI で変わる情報システム	宮川, 居駒, 弥生隆明	Z 必修	7.5	6
498	選択科目群 (Udemy)	居駒幹夫	必修	45.0	6
499	情報処理基礎科目群 (Udemy)	居駒幹夫	CPA 選択 必修	30.0	3

(2) 実施概況

ADPISA-Z, ADPISA-CPA は執筆時点で実行中であり、終了は 2026/3 の予定である。表 9 に受講者のプロフィールをまとめた。

表 9 2025 年度 ADPISA-Z, CPA 受講者のプロフィール

項目	ADPISA-Z	ADPISA-CPA
全受講者	6 名 (全員履修証明対象)	3 名 (履修証明対象) 1 名聴講
業種・職種	全員ユーザ系業種。 IT 系職種 2 名。その他 4 名。	4 名とも公認会計士。
性別	男性 3 名, 女性 3 名	男性 4 名
年齢	最年少 34 歳, 最年長 67 歳, 平均 49 歳	最年少 30 歳, 最年長 51 歳, 平均 40 歳

4. 企業連携の状況

社会情報学部がユーザ企業の DX 推進という社会的な大問題に対してプレゼンスを保つためには、継続的にユーザ企業の抱える問題点の抽出や、ベストプラクティスをウォッチし、それらの成果を企業に還元

し、企業と大学の間での Win-Win の関係を構築することが重要である。この目標達成のための取り組みを 2 点説明する。

(1) ADPISA コンソーシアム

本研究では、地域・企業・団体と連携した ADPISA 高度人材育成コンソーシアム（以下 ADPISA コンソーシアム、図 7）を設立し、これを起点に社会人向け教育を推進している。2025 年 1 月時点でのコンソーシアム参加企業・組織は 7 組織に留まっており、来年度は 10 組織以上に拡充を予定している。

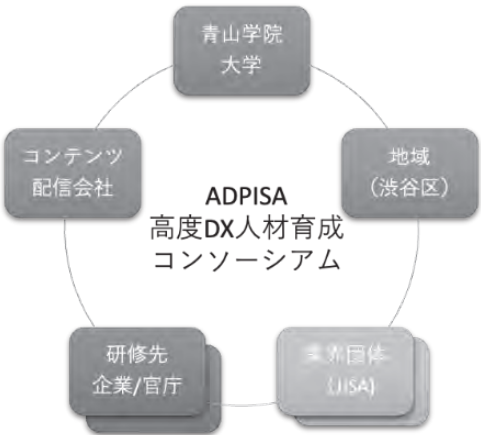


図 7 ADPISA 高度人材育成コンソーシアム

(2) 企業に対する DX 研修

ADPISA コンソーシアムに加盟している企業 2 社に対して、青山アカデメイア [5] の位置付けで DX 企業研修を実施した。概要を表 10 に示す。

表 10 2025 年度 ADPISA 企業研修結果

企業	業種	科目数	講義形態	時間数	(のべ) 受講者数
A 社	製造	5	リアルタイムの対面 / オンライン	31.5h	100 名
B 社	IT	3	オンデマンドコンテンツ視聴	10.0h	706 名

来年度に向け、ADPISA コンソーシアムを活用した企業研修をさらに強化し、ADPISA が育成を目指す IS アーキテクトをさらに輩出していく予定である。

謝辞

本研究は 2025 年度社会情報研究所研究予算の支援を受けて進めている。

参考文献

- [1] DX: Digital Transformation, IT の浸透による新ビジネスの創出, 改革を目指す動き
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_transformation/20180907_report.html
- [2] 「グローバル化を支える IT 人材確保・育成施策に関する調査」 概要報告書 2011 年 3 月 (IPA)
- [3] 浦昭二, 細野公男, 神沼靖子, 宮川裕之共編著: 情報システム学へのいざない, 培風館 (1998)
- [4] Udemy Business, <https://ufb.benesse.co.jp/>
- [5] 青山アカデミア, <https://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/akademeia/>